

16. さばんなかふえ

記録：水野桃弓

場 所：名古屋市緑区森の里1丁目94（ふれあいステーションもりのさと）
参加対象：誰でもOK
参加費：子ども 無料、大人 300円
代 表：小島千春さん（こどもNPO理事、名古屋市緑児童館、主任児童委員）
根岸恵子（こどもNPO ESD地域開発担当、名古屋市中川児童館館長）
他4名
主 催：特定非営利活動法人こどもNPO
協 力：森の里荘自治会
初 回：2016年8月28日（日）毎月1回
（プレオープン 2016年7月31日（日）10:00～15:00）

参加日時：2016年12月17日（土）10:00～15:00
参加人数：子ども12人、大人1人、スタッフ11人
献 立：豆乳シチュー、餃子（こどもと作る）、野菜の中華炒め、かぼちゃの煮物、長芋のバター炒め
参加者：山田美緒、水野桃弓

『子どもが主体性を持ち、子どもたち自身でメニューを考え一緒に作る“子どもとつくる子ども食堂”が始動します。ここは“食”だけでなく“あそび”“まなび”と多面的な育みの要素を持った子どもたちの居場所。食堂で出会う子どもも大人も、大きな家族のように集う温かい場のなか、子どもたちの生きる力を育てていくことを目的としています。』

◎場所

会場は無料で大きな厨房もあって助かっている。公営団地の真ん中にあり、子どもたちが集まりやすいが、開催日時によって人数は変動する。

◎資金

日本フィランソロピー協会の助成金により100万円受け取っている。
本岡恵さんが2016年12月9日今池で行われた“子どもの貧困フォーラム”で、パネルディスカッションに参加したことにより、まとまった寄付が寄せられた。

◎宣伝

回覧板にチラシを挟んで宣伝する。（公営住宅全10棟）開催時間直前に放送をかけて参加を促していた。毎月の子ども食堂を終えたら、さばんなかふえだよりを発行している。

◎食材

近くに天理教の教会があり、そこのお供え物をいただいている。また、当日に食材が集ま

るので当日にしかメニューは決まらない。肉や魚はおとな参加費（300円）から賄っている。

◎参加者

みんなもともと友達のように、子どものみの参加がほとんどであった。兄弟での参加もあった。日本語が片言の子どももいた。台湾から日本に来たお母さんは、日本食を覚えたいと言っていた。二歳から高校生まで幅広い年齢の子どもたちの参加が見られた。

◎ボランティア

厨房で調理する人は決まっていた。大人ばかりいると子どもたちが寄ってこないのではと思ひ、大人のボランティアは人数を制限している。

◎想ひ

公営住宅に住む子どもたちが「子ども食堂」を通じて生きる力を育み、自らの力を発揮しながら自己実現、社会参画の機会を得て、健やかに成長することを応援している。できるだけ料理も参加型にして子どもと一緒に作りたい。

◎感想

公営住宅のど真ん中で活動していることもあって、食堂を通して少しでも居場所をもてる人が増えて欲しいという願ひが伝わってきた。ここの公営団地は1979～1980年にかけて創設されてから、できた頃は子どもも多く保育園や幼稚園のバスが沢山通っていたが現在は高齢化率45%であり超高齢化団地である。そのような状況下の中で活気を取り戻すべくさまざまな行事の取り組みが行われている。この子ども食堂が少しでも団地に活気を取り戻すきっかけとなることや、団地の中での居場所となるような食堂であることが大事だと感じた。

◎写真

